

<p>1. 主催者・共催者名  ITTO（国際熱帯木材機関）  JICA（国際協力機構）</p>																													
<p>2. タイトル  REDD+のセーフガード：いつ途上国の現場に学ぶの？今でしょ！</p>																													
<p>3. 目的・概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ITTO と JICA が途上国で実施している現場活動から得られたセーフガードに関する経験と教訓を共有する。</li> <li>・それぞれの途上国の自然環境や能力の違いに応じた、実用的な方法でセーフガードを確保するために考慮されるべき重要なイシューを探る。</li> <li>・セーフガードに関して、透明で、一貫性があり、効果的な REDD+実施メカニズムの開発に貢献する。</li> </ul>																													
<p>4. アジェンダ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>時間</th> <th>内容</th> <th>名前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>9:00-</td> <td>開会</td> <td>後藤 健 氏, ITTO</td> </tr> <tr> <td>9:25</td> <td>基調講演</td> <td>五関 一博 氏, JICA</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">9:25- 10:05</td> <td>ガーナにおける CDM フォレストリーのための地域住民のための能力強化の取組から得られた教訓</td> <td>Dr. Emmanuel Opuni-Frimpong, ガーナ、森林研究所</td> </tr> <tr> <td>パプアニューギニアにおける地域住民の意見を伝える努力</td> <td>Mr. Rabbie Lalo, パプアニューギニア、森林公社</td> </tr> <tr> <td>コミュニティに対する悪影響を避けるための現実的で適応可能な FPIC</td> <td>Mr. Khamsene Ounekham, ラオス、農業森林省</td> </tr> <tr> <td>いくつかのアフリカの国々における森林インベントリーの現状を踏まえた生物多様性調査</td> <td>鈴木 圭 氏, JICA 専門家</td> </tr> <tr> <td>10:05- 11:00</td> <td>パネルディスカッション</td> <td>ファシリテーター: Dr. Carmenza Robledo</td> </tr> <tr> <td>11:00-</td> <td>クロージングリマーク</td> <td>五関 一博 氏</td> </tr> <tr> <td>11:15</td> <td>閉会</td> <td>後藤 健 氏</td> </tr> </tbody> </table>			時間	内容	名前	9:00-	開会	後藤 健 氏, ITTO	9:25	基調講演	五関 一博 氏, JICA	9:25- 10:05	ガーナにおける CDM フォレストリーのための地域住民のための能力強化の取組から得られた教訓	Dr. Emmanuel Opuni-Frimpong, ガーナ、森林研究所	パプアニューギニアにおける地域住民の意見を伝える努力	Mr. Rabbie Lalo, パプアニューギニア、森林公社	コミュニティに対する悪影響を避けるための現実的で適応可能な FPIC	Mr. Khamsene Ounekham, ラオス、農業森林省	いくつかのアフリカの国々における森林インベントリーの現状を踏まえた生物多様性調査	鈴木 圭 氏, JICA 専門家	10:05- 11:00	パネルディスカッション	ファシリテーター: Dr. Carmenza Robledo	11:00-	クロージングリマーク	五関 一博 氏	11:15	閉会	後藤 健 氏
時間	内容	名前																											
9:00-	開会	後藤 健 氏, ITTO																											
9:25	基調講演	五関 一博 氏, JICA																											
9:25- 10:05	ガーナにおける CDM フォレストリーのための地域住民のための能力強化の取組から得られた教訓	Dr. Emmanuel Opuni-Frimpong, ガーナ、森林研究所																											
	パプアニューギニアにおける地域住民の意見を伝える努力	Mr. Rabbie Lalo, パプアニューギニア、森林公社																											
	コミュニティに対する悪影響を避けるための現実的で適応可能な FPIC	Mr. Khamsene Ounekham, ラオス、農業森林省																											
	いくつかのアフリカの国々における森林インベントリーの現状を踏まえた生物多様性調査	鈴木 圭 氏, JICA 専門家																											
10:05- 11:00	パネルディスカッション	ファシリテーター: Dr. Carmenza Robledo																											
11:00-	クロージングリマーク	五関 一博 氏																											
11:15	閉会	後藤 健 氏																											
<p>5. 発表・議事の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Emmanuel 氏は、アグロフォレストリーの実践に従事している土地所有者と現地住民の間の公平な利益分配の重要性を強調した。また、REDD+活動を成功させるために、土地</li> </ul>																													

所有の構造や社会的、経済的、環境的な利益の面での取り組みの必要性を指摘した。

- ・ Rabbie 氏は、地域住民と取り組む時の困難（FPIC プロセスが厳しく費用がかかる活動であること、アクセスの問題がある等）があるものの、REDD+活動を行うために国際的、国、準国の各レベルでの決定・政策作りに当たって住民の意見を聞くことや、地域住民との協働を行うことが必要となることを報告した。
- ・ Khamsene 氏は、現地での参加型を通じた丁寧な活動を実施するなかで、住民から挙げられる声（温室効果ガスとは？REDD+とは？など）に応じていくことの難しさと参加型で課題を解決していくことの重要性や、活動を進める中で住民が参加を撤回できる仕組みの必要性を報告した。
- ・ 鈴木氏は、システムティック・サンプリングを行うと非常に多くの調査点が必要になるとともに場所によってはアクセスが非常に悪いところがあること、生物多様性調査は高い専門性の情報が必要となるものの人材は限られているため、インベントリー手法の単純化や、村落住民との協力が必要であることを述べた。

パネルディスカッションの概要：

- ・ Carmenza 氏は参加者との交流を活性化するため、まず発表者に対して一連の質問を行った。最後にセーフガードの手順と手続きは、関係者の参加を促進するために、最小限のコストとなるようにすべきであり、また国や現場の様々な状況を十分踏まえた柔軟なものであるべき、と締めくくった。

## 6. 会場写真

